

hito*yume
インタビュー

東儀秀樹

巻頭特集

古典の継承の傍ら、雅楽器と現代音楽を融合させた独自の音楽活動で活躍する東儀さん。
小学生の息子さんのパパでもござります。ご紹介します。
「雅楽界のプリンス」から先生方に贈る、熱きメッセージとは。

【とうぎ ひでき】

1959年、東京都生まれ。奈良時代から1300年にわたり雅楽を世襲してきた東儀家に生まれる。幼少期を海外で過ごし、帰国して高校を卒業後、宮内庁楽部に入り、宮中儀式や皇居での雅楽演奏会に参加。96年宮内庁を退職し、『東儀秀樹』でアルバムデビュー。NHK大河ドラマ『篤姫』では孝明天皇を演じるなどドラマ・映画への出演も。著書に『雅楽：僕の好奇心』（集英社）、『すべてを否定しない生き方』（KKロングセラーズ）、『東儀家の子育て 才能があふれ出す35の理由』（講談社）など。

心にふれるやわらかさを考える。つくる。

Crecia



うるおいの肌ざわり

Kleenex[®]
BRAND

AQUAVeil

アクアヴェール

うるおい成分が水分をキープするから
使い心地しなやかで素肌にやさしい。
お肌専用のティッシュです。

(さらにひとつ上のクリネックス。)

日本製紙グループ
日本製紙クレシア株式会社

®Registered Trademark of Kimberly-Clark Worldwide, Inc.
<http://www.crecia.co.jp>



家族のような“寺子屋”教室。 先生が体を張ったような授業で、刺激 を受けた。

お伺いしたのは、満洲で閑静な住宅街にある東儀さんのお宅。玄関前には、男の子用の自転車がある。通されたミーティングルームには、ギターなどの愛用の楽器や自作の絵画がスタイリッシュにディスプレイ。ガラス越しに見えるガレージからは、鮮やかな赤のレースカーやバイクの姿が、好奇心と遊び心を刺激されて、ワクワクする。この部屋の主は、一体どんな少年時代を過ごしたのだろうか。そんな、興味が湧いてくる。

クラシック、映画音楽、ビートルズ。たくさん音楽に囲まれて。

幼少時代のお話から伺います。7歳までタイで過ごされたのだとか。

ええ。生まれたのは東京ですが、父の仕事の関係で1歳から7歳までバンコクで暮らしました。

当時のバンコクは東南アジアで一番の都市。日本企業も海外の開拓を始めた時代で、父は社命と大きな夢を背負って当地に赴任しました。庭付きの二戸建てに住み込みのお手伝いさんが2人、ドライバーも付いているという、

恵まれた環境で育ちましたね。

日本人は周囲に少ない時代。遊び仲間はいましたか。

近所の子供たちと普通に遊んでいましたよ。僕は英語はもとより、タイ語もペラペラでしたから。

両親は僕のことをけっこう自由にさせてくれて、僕はよく現地人のお手伝いさんに連れられてバンコクの町なかへ買い物に出掛けました。衛生環境も不安定でしたが、道端で売られているお菓子も面白い食いさせてもらっていました。タイ人の生活を存分に味わって育ちましたね。

ご家庭の雰囲気は。

家の中では幅広いジャンルの音楽が流れていました。父の好きなクラシック、母の歌う童謡、映画音楽。家族でハリウッド映画を観にいったら、帰りにサウンドトラック盤を買って聴きましたね。母によると幼い僕は映画『マイ



小学1年生のころ、以前通っていた幼稚園を訪れてお世話になった先生方と。

そんな海外生活から小学2年生のときに日本に帰国し、公立の小学校に。環境の違いを感じたのでは。

それが全然感じなくて。日本でも入ったその日から学校になじんで、友達と遊んでいましたから。2つ上の姉は悩んでいて登校をおっくうがっていたけれど、生来の順応性のなせるわざじゃないかな。

特に困った経験もなく、小学校の記憶がほとんどないくらいです。

好きだった科目は。

体育、図工です。クリエイティブなものが得意でした。一方で計算的なもの、算数はやる気がなくて。つまらないと思ったものは、ずっと不得意なままでしたね。

放課後は野球をしたり、ミニカーで遊んだり、ギターもよく弾いていた。5年生のとき藝大の油絵科に通う学生さんから、ブルースのコード進行を教えられて弾いていました。

友人はだしてギターを粹に弾きこなす小学生。やはり、卓越した音楽の才能は当時から自覚していた？

自覚したのは高学年の頃かな。メロディーをちょっと聞いただけで譜面なしで全て再現できる。自分は音感については人と違う、特殊なものを持っていると気付きました。自らの感覚を頼りに、クリエイティブにつくり上げることに向いている人間だということも。

コミュニケーション型授業で、先生と真剣勝負。

中学時代はお父様の仕事の関係で1年間メキシコに。帰国後、帰国子女の通う国際学級に編入。

小学校とガラリと雰囲気は変わって、1クラスは4人くらい。

家族的な雰囲気では、いわば寺子屋。先生との距離も近かったですね。さらに同級生は欧米帰りの子ばかりで、しっかり自己主張する。先生に

フェアレディ』の曲を全て暗記して歌っていたらしい。またあるときは父がウクレレを買ってきてくれて、僕は弾き方も知らなかったけれど音を探し当てて弾いていました。

現地駐在員の子女が通うインターナショナルの幼稚園では、友達を通してビートルズも知った。日本ではまだ知られていないような世界の最先端の音楽に触れられて、ませた感覚で過ごしていたと思います。

怒られても、それが正当でないと判断すれば猛然と反抗、批判するんです。

少人数クラスは活発で、コミュニケーションも濃密だったのですね。

先生も、聞いていても聞いていなくてもいいというような、なまなあの授業はできなかったはずで、体を張っていましたね。「このことについて、東儀くんはどう思う？」などと、どんどん先生は投げ掛けてくるんです。サボリやナマケが許される余地もなく、授業中は百パーセント気が張っていました。みんなの考えの渦の中に巻き込まれていくようで、とても刺激される時間でした。

ハードロックに打ち込んだのち、日本の伝統・雅楽の道へ。

当時熱中していたのもギター？

ブリテン系のハードロックをやっていました。当時はロックギタリスト志望でしたから。高校生になるころには、校内でも一目置かれる存在になっていて。



中学3年生のころ、自分の部屋にて。
ビートルズやピンクフロイドのポスターに囲まれて。

学校でも相当モテたのでは…？

ええ…まあ、追い掛けられはしませんでしたけれど、僕はシャイな性格分です…。対応とかうまくできなくて、モジモジしておしまいでした。

雅楽を世襲してきた家系として、その道に進むことは考えなかつた？

ええ。両親からも一切言われず。ただ親からは「そんなに音楽が好きなら雅楽もやってみたら」と勧められ、高校卒業後に宮内庁の楽生となり雅

楽を学び始めたんです。

当時、18歳で学ぶには遅いと言われてました。が、僕の経験してきた海外生活やさまざまな音楽、全てがそのときリンクして、古典を理解する道具となつた。それらがあつたからこそ、雅楽だけを学んできた人には分からない、雅楽の本当の魅力を発見できたのだと思つて、いますね。

子供が自ら知りたくなる、能動的になれる仕組とは。

このアルバムの中の3曲目。箏ひちりきという楽器が出てくるんだけど、吹いているのは僕なんだよ」と。「えー」「松潤ってどんな感じでした？」「その曲聴きたい」と反応がきた。彼女たちは「雅楽の人が来て「宮くんや松潤の話をしてくれた。この人一体何者なの？」と興味を湧いたんです。演奏すると大喜びで、終了後は一斉に箏ひちりきに触りに来た。授業で「雅楽とは」と勉強するより、彼女たちは百倍濃く雅楽を学べたと思つてますよ。

名授業には、子供が自ら参加できる仕組みがあるんですね。

その方が吸収力が全然違う。イヤイヤ聞いたって身に付かない。大事なのは、自分から能動的に知りたくなる仕組み、興味の入り口をつくることだと思います。

子供の個性によって、「投げ方」を変える。

具体的にはどのようにして「興味の入り口」をつくれればいいのでしょうか。

まず、一人一人の子供と対話を繰り返して、その子の好みや方向性を把握することです。つまり、個性を見抜くこと。先生が子供に寄り添って個性を伸ばそうという意識を持つだけで、その子のワクワク感は引き出せるはず。それを把握したら、子供によって「投げ方」を変える。教科の垣根を越えて教えるのもいいでしょう。例えば理科が好きなら、算数の授業に「カエル」「日の出」など理科的な言葉を取り混ぜて投げ掛ける。

音楽の好きな子なら、国語の時間に音楽的な文章が登場したら振つてみる。バイオリンが登場したら、脇道にそれるけれど「弾いてみて」と投げ掛けたらいい。

その子のワクワク感を刺激する。

はい。音楽好きな子が国語好きになるチャンスなんです。入り口は至るところにあり、どこからでもいい。その子の知りたいものに教える側はきつかけを落としていくだけでいい。

それが教える側の仕事だし、先生自身もワクワクしてすごく面白いことではないかと思つてますよ。

東儀さんは「雅楽」のレクチャーで、小学校の教壇に上がられることも。一般に古楽の芸術鑑賞会という居眠りする子もいるとか。

「雅楽という音楽はシルクロードを通り…」なんてやっちゃって、子供は興味を持ちません。僕は最初に「みんな、今どんな歌、歌ってるの？」と聞くんです。

「妖怪ウオッチ〜」と答えが返ってきたら、箏ひちりきでそれを吹いてみる。変なおじさんが不思議な楽器で吹いている！(笑)「ん？」と子供たちは一気に乗り出してきました。そこで「これ、すごく古い楽器なんだ。どれくらい前だと思う？」と聞く。「10年前？」「もっと古いよ。みんなの生まれる前」というと「六千五百万年前！」こう答えるのはたいてい恐竜好きの子なんだ(笑)。その子は答えた瞬間、箏ひちりきに興味を向け始めているんです。

子供たちもいつの間にか雅楽の世界に入り込んでいく。

今日も女子校で講義したんですけど、まず「(タレントの)嵐、好き？」と投げ掛けた。「大好き」ときたから、「嵐

当たり前でないところの創造力こそ、子供の特権。

お子さんは今小学3年生。父兄として気付くことは。

今の学校は「すでに子供はノウハウを知っている」ことが前提なんです。例えば体力測定を授業参観で見たんですが、ソフトボール投げでは投げ方を先生は教えない。だから経験のない息子は下に投げるだけ。また、反復横跳びでは、息子はやり方が分からない。先生に聞いたら「線をまたいで跳ぶんだよ」と。すると息子は、一本の線の上

子供の創造力を伸ばす喜び。ワクワクの入り口は、一つじゃない。

をピョンピョン跳び始めた。まあ言葉通り、間違っていないんだけどね(笑)。

実際息子は木登りが得意だし、敏捷でチャレンジ精神も旺盛。だけど、成績は「東儀くんII体力ゼロ」。僕は息子に「アンラッキーだったね」と理解してあげているけれど。

テスト方式によつては結果が出ない子もいるんですね。

先生方をお願いしたいことは。子供の発想を頭から否定しないことですね。あるとき息子の小学校に消防車が



高校2年生のころ、友達と組んでいたロックバンドの本番前の楽屋にて。

新刊のご案内

筑波大学附属小学校を
この春退職の白石範孝先生が
これまでの日本の国語教育と
これから「国語」がめざすべき方向を
思う存分、語ります。

筑波大学附属小 在職中
最後の新刊
です



表紙デザインは変更になることがあります。

国語の冒険

筑波大学附属小学校

白石範孝 著

■上製本、四六判、192ページ

■定価 2,000円+税

2016年
4月刊
予定

今だから明かす
「ホンネ」と
「熱い思い」

- ▶「ごんぎつね」の「事実」——「ごんぎつね」の授業と読みへの疑問
- ▶国語はなぜ嫌われる——国語教育の問題が連鎖している
- ▶国語の授業で、何を教えるのか——「だから何?」と思われる授業
- ▶これからの国語に求められる「説得」の力——教師の役割も変わっていく
- ▶「B問題」の問題——全国学力・学習状況調査「B問題」は特別ではない ほか

白石範孝先生

平成27年度 授業づくりまるごと講座

特別企画

筑波大学附属小学校 最後の公開授業

「教材の論理」を生かした国語の問題解決学習

白石先生ご自身の授業が2本!
【物語】【説明文】

平成28年**3月12日(土)** 10:00~16:30
(受付 9:00~)

会場 筑波大学附属小学校 講堂 (東京都文京区大塚3-29-1)

参加費 3,000円

参加お申込み 文溪堂まるごと講座 で検索!

●文溪堂ホームページ (<http://www.bunkei.co.jp/>) でご案内します。

[文溪堂トップページ](#) → [研究会情報](#) → [白石範孝先生「授業づくりまるごと講座」案内](#) → [申込みフォーム](#)

※通常の「授業づくりまるごと講座」とは申込み方法が異なりますのでご注意ください。



息子とは徹底的に遊ぶ。「スーパー・イクメン」の称号も。



1台来て、全員で写生したそうです。息子は夢中になって画用紙にたくさん消防車を描いた。すると先生から、「1台なのに」と注意されたのだとか。僕は何台描いた方がいいと思う。象をピンクに描いてもいい。当たり前でないところの創造力こそ、子供の特権。その遊び心から、成長は始まるのだから。

そこに成長のチャンスの芽があると。最後に東儀さんから、先生方にエールをいただきたいと思います。「マニユアルを外れて試すことを恐れなくていいです。子供が鉛筆を遊び道具に使ったとしても「ものを大切に!」とマニユアルで叱る前に、「呼吸置いて!」とどうしてそうやろうと思ったの?」と聞いてみてください。すると子供は「実は...」「こうしようと思って」と対話を始めてきます。小

東儀さんの音楽は、とても自由だ。幼少時代暮らしたタイの露店の味、ビートルズ、ハードロック、藝大生から教わったブルース、寺子屋授業...。それらが古典につながり、唯一無二の音楽へと花開いた。ものごとの「入り口は至るところにある」という言葉が重みを増す。端正に語る表情が、神妙な面持ちに変わったのは、「子の親となって変わったことは?」と尋ねたとき。「これまでもいつ死んでも悔いはない生き方をしてきた。けれど今は、息子を残していけるものが、成人するまで導きたい。生きまわると思っています」。天才音楽師の顔が、子を想う一人の父親に変わった瞬間だった。

言はそのあとでいい。「先生は聞いてくれない。どうせ話しても無理」と諦めたら、子供は閉じてしまう。やがて思春期に入ると、完全に閉じてしまします。「マニユアルを外れたら、親や上司から怒られるのでは...」と心配する若い先生もいるでしょう。それでも、子供の「マニユアル」を貫く気概を持つことを僕は応援したいですね。そうして子供たちが目の前で、瞬間のうちに成長する。その目の輝きを間近で見られる。その瞬間こそ、教師として最も達成感を得られるときではないでしょうか。

読者プレゼント!



東儀さんの直筆サイン入り著書「東儀家の子育て」才能があふれ出す35の理由」を5名様にプレゼントします。応募の詳細は35ページをご覧ください。



東儀秀樹 With RYU 2016

台湾の若き伝統楽器奏者たちと、雅楽器とアジアの伝統楽器を融合させて新しいユニット「東儀秀樹 with RYU」を結成。3/19渋谷オーチャードホール、3/20ビルボードライブ大阪で世界デビューコンサートを開催する。